

「学校給食実施方式案に対する評価（案）」について

1. 「評価（◎・○・△）」の考え方について

評価「◎・○・△」は、評価項目ごとに各案を比較した際の、相対的な評価としています。

2. 第3回審議会からの評価（案）の変更箇所について

第3回審議会及びその後に委員のみなさまからいただいた意見を踏まえ、評価（案）を変更しました。

No.	該当箇所	いただいたご意見	変更箇所等
1	①(1)衛生環境の構築	・A・C案は、スペースを作り出す可能性も模索する必要がある。	・H30年度に行った全校調査及び検討会による検討の結果、親校において、衛生面に配慮した上で敷地内にスペースを作り出すことは困難と判断しているため、A・C案は、△のままとしています。
2	①(1)衛生環境の構築	・D案は、他案に比べて高水準の衛生管理ができ、「理想的」という表現があるため、○→◎が良い。 ・B案も、D案と同じであれば○→◎が良い。	・新設の給食施設となるセンター、自校においては、理想的な衛生管理を行うための施設整備が可能と考えるため、B・D案を○→◎に変更しました。
3	①(1)衛生環境の構築、リスク管理	・E案は、選定時に業者を精査するとともに、監視・監督体制を構築することで課題を解決できるため、△→○が良い。	・E案は、確かに業者の選定やモニタリング体制の構築が重要となりますが、市による直接の監督が、他案と比べて相対的に困難と考えます。評価の説明を追加しました。
4	①(1)リスク管理	・A・C案は、予防を徹底することでリスクを低下できる。	・A・C案は分散管理となるため、集中管理となる他案に比べて相対的にリスクが高まるため、△のままとしています。
5	①(1)リスク管理	・D案は、徹底した予防対策ができるのであれば、○→◎が良い。	・D案を○→◎に変更しました。
6	①(1)リスク管理	・C案の、「発生リスクが他の案に比べ高まる」といいうころを、A案に記載されているように「B案に比べ高まる」と変更しては。(B案の評価が「○」のため。)	・C案の評価の記述を、「B案に比べ高まる」に変更しました。
7	①(1)リスク管理、リスク発生後の対応	-	・「事故（食中毒等）」の表現について、「事故」とは、食中毒に限らず、元の食材自体の不良や調理中の事故等も想定されるため、「事故等」に修正しま

No.	該当箇所	いただいたご意見	変更箇所等
			した。
8	①(2) 対応範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ A・C案は、小学校のアレルギー対応範囲の統一や人材確保等により補える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在小学校 32 校では、市の食物アレルギー対応マニュアルに沿って、卵・うずら卵の除去食対応を統一に行っていますが、学校によっては、乳やその他のアレルギー食品にも独自に除去食対応を行っている場合があります。 ・ A・C案は、親子方式となることにより、食数の増や調理スペースの制約から、この各小学校独自のアレルギー対応が全てできない可能性があることを記載しています。また、親校では、人員を増やしても、スペースが限られていることにより、対応範囲を拡大して統一することは困難であると考えます。したがって、A・C案の評価は△のままとしています。評価の説明が分かりにくかったため、説明を追加し、表現を修正しました。
9	①(2) 対応範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ D案は、専用調理室により対応範囲を広げることが可能であるならば、○→◎で良い。 ・ B案は、自校方式において食数に対する調理員の数が決まってくるため、D案よりは対応が困難になるので、D案よりも評価は低くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ D案を○→◎に変更しました。 ・ B案においても、新たに自校調理場を建設する際に、専用調理室の設置や調理員数の検討の可能性が考えられるため、D案の変更に伴い、B案も○→◎に変更しました。
10	①(2) リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ B・D案は、「アレルギー事故が起こる可能性が高まる」という表現があるが、○のままが良いか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ この箇所は、「対応範囲を拡大しすぎると複雑な対応となり事故が起こる可能性が高まる」と記述しており、評価は○のままとしています。
11	①(2) リスク管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ A・C案は、スペースを作り出す可能性の模索や、食数が 1,000 食を超えないような工夫の必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ H30 年度に行った全校調査及び検討会による検討の結果、親校において衛生面に配慮した上で敷地内にスペースを作り出すことや、1,000 食を超えない組合せは困難と判断しているため、A・C案は、△のままとしています。
12	②(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3品献立は最重要項目。常に主食・汁物・主菜・副菜の食事形態とすることで、栄養バランスも良くなるし、食育 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ②(1)の評価項目は「おかずの品目数」と設定していましたが、単なる品目数だけではなく、栄養バランス等も重要

No.	該当箇所	いただいたご意見	変更箇所等
		<p>の観点からも、そのような食事が健康に良いことを目で確認することも重要。</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生と同じ献立で量を増やすだけではだめである。 	<p>であるため、(1)の「中学生にふさわしい献立」をそのまま評価項目としました。</p> <ul style="list-style-type: none"> B・D案について、自校またはセンター方式では、栄養バランスのとれた献立の実現可能性が高いため、B案は△→◎に、D案は○→◎に変更しました。 E案も、市が示す業務仕様次第で栄養バランスやおかずの品目数に配慮した献立の実現が可能であるため、△→○に変更しました。 各案で、評価の説明も追加・修正しました。
13	②(1)	<ul style="list-style-type: none"> E案は「○」であるが、その理由として挙げられている配送時間対策としての調理開始時間の工夫等を市が示すことと、栄養バランス献立の実現はあまり相関性があるとは思えない。また、設備状況で、献立が制限されるリスクがあるのであれば、「中学生にふさわしい献立」の項目からすれば「△」でも良い。また、必要条件を満たせる企業は限られているため、利権構造を作ってしまうかねない。 	<ul style="list-style-type: none"> スペースや調理時間という制約があるA・C案に比べて、E案は、市が示す業務仕様次第で「中学生にふさわしい献立」の実現可能性があるため、評価は「○」のままとしています。
14	②(2)	<ul style="list-style-type: none"> 重要度が★1つとなっているが、もっと高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 重要度を★1つ→★2つに変更しました。
15	②(2) 調理時間・調理方法	<ul style="list-style-type: none"> 評価項目が「調理時間」と「適温提供」だけで良いのか。例えば皮ごと調理のような工夫や食感を残すこと等も重要である。 B・D案の調理時間の課題は、人員を増やすことや調理を早く始めることで課題を解決できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 元の評価項目「調理時間」は調理方法とも関連するため、「調理時間・調理方法」に変更し、各案で、評価の説明も追加しました。 その上で、調理方法の工夫は、自校では多様な調理方法の導入が検討可、センターでは調理時間や人員の工夫次第では可、民間調理場では市の示す業務仕様次第で可、親子では2回転調理による時間の制約があるため困難と考え、B・D・E案を△→○に変更しました。

No.	該当箇所	いただいたご意見	変更箇所等
16	②(2)調理時間・調理方法	・ A・C案は、小学校と中学校で昼食時間をずらすことにより解決できる。	・ H30年度の調査報告書31～33頁に示すとおり、親子方式では既存給食室の調理能力の制約上、2回転調理をすることになります。2時間喫食を順守するためには現行の給食時間を大きく変更する必要があり、学校運営面への影響が大きいと考えます。
17	②(2)調理時間・調理方法	・ B・D案の調理時間の課題は、人員を増やすことや調理を早く始めることで課題を解決できる。	・ 2回転調理という制約があるA・C案に比べて、B・D案は人員増や調理開始時間の前倒しにより課題解決の可能性があるため、△→○に変更しました。 ・ E案も、市が示す仕様次第で調理時間の課題を解決できるため、△→○に変更しました。
18	②(2)適温提供	・ おいしい食事は、適温提供が重要である。 ・ A・C案を○→◎へ、B・D・E案を△→○にしても良い。△にするほどの欠点は見当たらない。 ・ B・D案は、センターの場所次第で評価を上げて良い。 ・ B・D・E案は、食缶の性能次第では評価を上げて良い。	・ 保温食缶により、調理完了時に90℃だった汁物は、約1時間45分後の喫食時には約60℃、調理完了時に58℃だったご飯は喫食時には約50℃となり、B・D・E案もA・C案と同様に喫食時に十分適温の給食を提供できると考えるため、B・D・E案を△→○に変更しました。
19	③(1)	・ D案は効率性に優るのであれば○→◎が良い。	・ D案を○→◎に変更しました。
20	③(1)	・ E案の民間事業者の倒産・撤退リスクは、委託先の調査の徹底や撤退時のルール設定等により防ぐことができ、D案のセンターの人手不足のソフト面のリスクと同じであるため、同評価の△→○が良い。	・ 民間調理場を使用した場合、事業者の倒産・撤退時は、次の調理場が確保できるまで給食が停止することになり、市の給食施設を使用する場合と比較してリスクが高いと考えます。E案は△のままとし、評価の説明を追加しました。 ・ 「施設整備費や土地取得費用が不要」は定量的評価で評価すべき事項であるため、削除しました。
21	③(1)(2)	・ コストの評価も表現に盛り込めないか。	・ コストのうち、効率性や合理性にかかる部分は、「定性的評価」の表中に記述しているとおりでありますが、金額面は、「定量的評価」にて評価を行うものと

No.	該当箇所	いただいたご意見	変更箇所等
			考えます。
22	③(1)(2)	・ B案は、自校方式があるため、将来的な生徒数の変動・学校統廃合時の課題や、学校間での違いが生じることを考えると、○→△が良いのでは。	・ ③(1)、(2)ともにB案を○→△に変更しました。 ・ ③(2)のB案で、「自校方式3校とセンター方式11校とで将来変動対応に差が生じる可能性がある」ことを評価の説明に追加しました。
23	③(2)	・ A案が△であるのに、B案は○で良いのか。	
24	③(2)	-	・ D案は、全校分の調理を行う給食場を使用することから、他案に比べて、将来変動への柔軟な対応において特に優位性があるため、○→◎に変更しました。
26	③(2)	-	・ E案で、「(生徒数の増減や学校統廃合への柔軟な対応について)民間企業の経営状況によっては対応できない可能性がある」ことを評価の説明に追加しました。
27	③(3)	・ 重要度が★2つとなっているが、重要度を上げて良い。	・ 原案どおり★2のままとしています。
28		・ 災害時の給食室の使用について、誰が・誰のために・どのように使用するか具体的に練られていない中、重要度を上げる必要はない。	
29	③(3)	・ 災害時に避難所が併設され、給食施設が災害対応施設として機能する中で、給食の再開はどうするのか。 ・ 災害時、地域に役立つ給食施設になってほしい。	・ 原案では、(3)「災害時における早期復旧、地域貢献も可能な学校給食」の中に、「災害時に施設を早期に復旧させて早期に学校給食を再開すること」と「災害時に(炊き出し等を行い)地域に貢献すること」の2つの観点が含まれておりましたので、評価項目を「学校給食の早期再開」と「地域貢献」に細分化し、評価を行いました。 ・ その上で、原案ではA～D案が○でしたが、「学校給食の早期再開」において、既存施設を活用するA・C案は、災害対応を施した上でも予期せぬ被害が生じる可能性があるため、△にしました。
30	③(3)	・ B・D案で、センターでも被害はある	・ 他市のセンターでは、自家発電設備や

No.	該当箇所	いただいたご意見	変更箇所等
		のではないかと。民間事業者が業務を受託した場合は、災害時に対応してもらえるのか。	プロパンガスへの切り替え設備、防災貯水槽を設置する等、災害対応機能を備えた施設とするように工夫されています。民間事業者が受託した場合は、事業者との災害協定によります。
31	③(3)地域貢献	・災害時に身近に炊き出しのできる施設がある方が良いため、A・B案の評価は○→◎が良い。	・給食場の数について、A・B案の場合は、現状よりも自校方式となる3校分が増えるのみとなります。他案のメリットと比較して特に優位性があるとは考えられないため、A・B案の「地域貢献」の評価は○のままにしています。
32	③(3)学校給食の早期再開、地域貢献	・【「学校給食の早期再開」について】D案は、B案と同じ「○」となっているが、センター単体であるため、B案に比べると復旧が早い可能性があるため「◎」が良い。ただし、被害の状況等にもよる。 ・【「学校給食の早期再開」「地域貢献」について】D案は「○」になっているが、1ヵ所に集約されているので、早期再開のための対応や、人員の確保が他よりも可能であるため、「◎」にしても良いのでは。	・確かに、既存施設を使用するA・C案や、民間調理場を活用するE案に比べて、新設の給食施設となるB・D案は、建設時に災害に強い施設とすることが可能であり、また、ご意見のとおり、「全校一斉再開」の観点からはセンター単体が有利とも考えられますが、運営段階の対応策は、現時点においてどの案も担保が困難であることから、施設整備段階に関してのみ記述し・評価し、B・D案ともに○のままとしています。
33	④(1)	・この項目は中学校給食を始める上で基本になると思うので、重要度を上げて良い。	・この項目は、三段階の重要度のうち、★2の「検討委員会報告書において全ての整備案に共通する課題に関連する項目であり、検討会及び審議会が基本方針実現に向けて重要と考える項目」と考え、原案どおりとしています。
34	④(1)	・A・C・B案は、調理員や配送員との距離が近いと、食育の観点から良い影響がある。D・E案は、食の取り組みを身近に感じてもらえるような工夫が必要である。	・A・B案の自校3校以外の中学校は、自校に給食場が無く、センターもしくは親校から配送されることになるため、いずれの案であっても、食の取り組みを身近に感じてもらえるような工夫が必要であると考えます。
35	④(3)	・生徒に農業に関心を持ってもらい、食育につなげるためにも、重要度を上げて良い。	・この項目は、三段階の重要度のうち、★1の「検討委員会報告書において全ての整備案に共通する課題に関連する項目」と考え、原案どおりとしています。

No.	該当箇所	いただいたご意見	変更箇所等
			す。
36	④(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者では、コストの観点から、地産地消が困難である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理の受託が民間事業者であっても、物資は、市の物資選定委員会で選定した物資を市で購入し、納入することになるため、E案は○評価のままとしています。
37	④(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・A・C・B案の親子方式や自校方式では、センター方式に比べて地産地消のハードルが下がる。 ・全案で同じ内容、同じ評価となっているが、スケールメリットはD案が最も大きく、流通や情報の受発信もスムーズにできると考えられるので、「◎」が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・B・D・E案は、物資の納品先が集中するため、生産者等が納品しやすくなる等のメリットがあります。一方のA・C案でも、対象校を絞って納品する等の方策が考えられるため、全案とも○のままとしています。

※その他、文言の追加・修正を行いました。